いのち・こころ・環境の未来を創造する大学
人間環境大学
UNIVERSITY OF HUMAN ENVIRONMENTS

COVID-19による看護教育のレジリエンス
ー対面・遠隔のハイブリッド授業ー

人間環境大学松山看護学部
教授 岡多枝子[1]　講師 上西孝明[2]

- 人間環境大学松山看護学部はAP/CP/DP達成による「大学教育の質保証」に基づく看護教育を行ってきた。

- 発表者1はALとSDGsの視点を導入したハイブリッド（対面・分散・遠隔）授業を実施し、遠隔授業の長所・短所・展望の中で看護教育のレジリエンスが示された。

- 発表者2は、COVID-19の影響により、臨地・臨床実習も学内実習への変更や、オンライン実習の実施を余儀なくされた。本学では高機能シミュレーターやバーチャルシミュレーションを活用し、コロナ禍における新たな臨地・臨床実習の在り方や取り組みについての示唆を得た。

- 以上の通り、新たな時代の看護教育の質保証に向けて、医療等関係機関と協働して学生の学修・キャリア支援を進める必要がある。

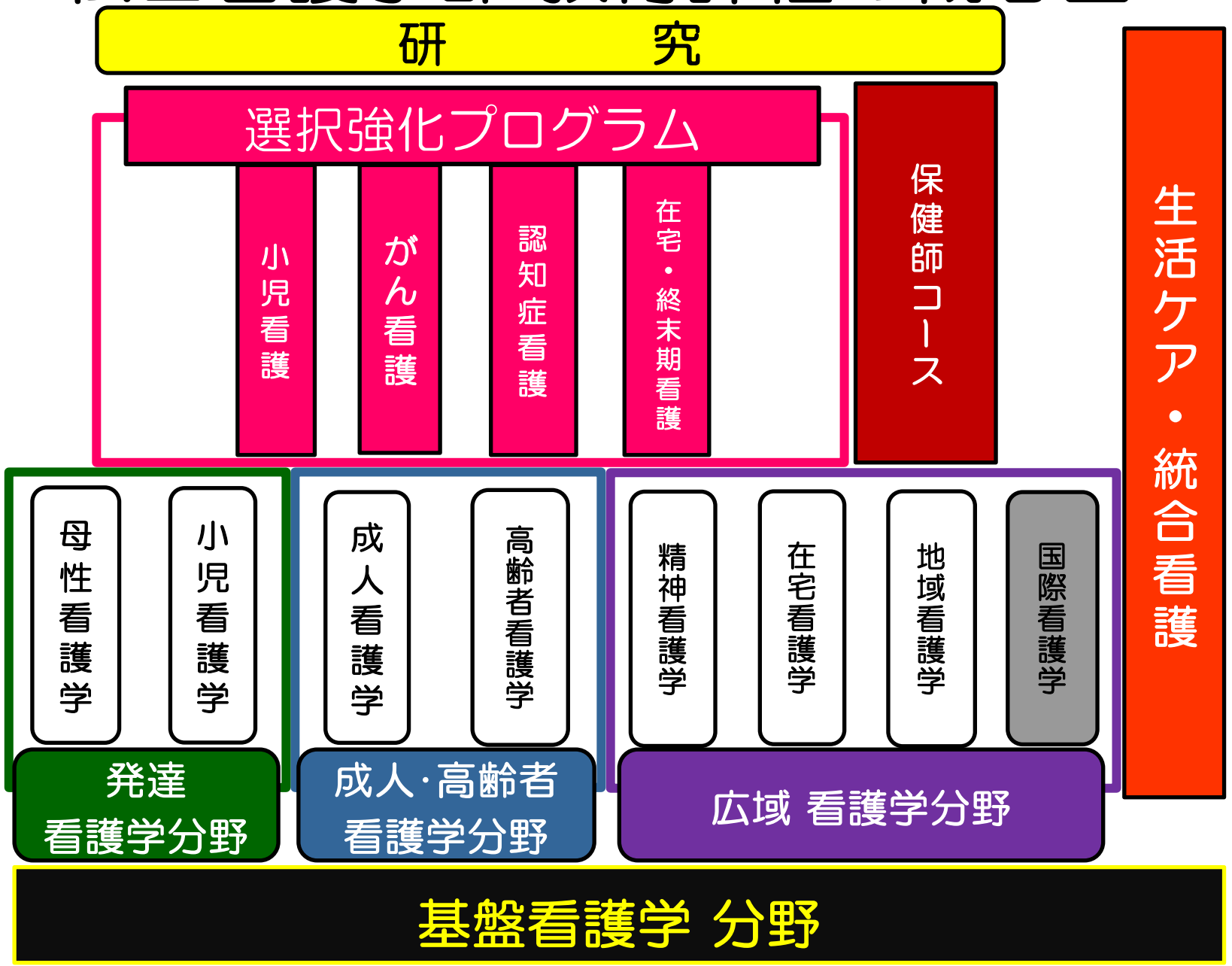
Keyword
大学教育の質保証　ALとSDGs　リアルタイムでの実習指導　レジリエンス

人間環境大学の学び

初代学長の竹市明弘と学園理事であった
梅原 猛、心理学者である河合 隼雄が、
京都大学大学院人間・環境学研究科の理念
をもとに構想を練り、**2000**年**4**月に開学。

人間と**環境**をキータームとし、
グローバル化、複雑化していく世界の現状を前に、
新しい学びの形を作り上げてきた。

松山看護学部 教育課程の概念図



松山看護学部の特長

● カリキュラム

最先端の医学・医療知識を持ちつつ、
地域特性に適応できる看護を学びます。
「国際看護学」など、
専門分化や国際化が必須となる、これからの看護を見据えた最先端のカリキュラムを用意しています。

- 地域の健康問題を解決するための、伊方町との連携協力の一環として、「伊方町社会福祉大会」に、学生・教員と参加しました。

- 臨地実習の一環として、瀬戸内海巡回診療船「済生丸」に同乗し、瀬戸内の島々での診療活動も体験します。

卒業後の進路、就職先について

- 病院・診療所などの医療機関
- 都道府県、市町村の保健所、保健センターなどの行政保健機関
- 学校における養護教諭(養護教諭免許を取得した場合)
- 看護系・助産師系大学院、助産師養成課程への進学
- 企業などの各種事業所における産業保健分野
- 公的部門や医療系企業などの研究機関
- 訪問看護ステーション、在宅サービスなどの在宅ケア機関
- 看護系大学、看護師養成所などの教育機関での教員
- 介護老人保健施設、介護老人福祉施設などの介護保険施設

◇最近では、こんな専門職への道もあります。

- 適切な介護サービスを受けられるように支援するケアマネージャー
- 患者さんの代理人としてサポートする医療コーディネーター
- 医薬品開発のための臨床試験を円滑に進める治験コーディネーター

【速報】

第110回 看護師国家試験　100％合格

第107回 保健師国家試験　100％合格

全員受験・合格！

学生の有意義で充実した大学生活を、専任教員による「メンター制度」で学習や進路面、学生生活の相談など４年間を通じた手厚い支援。

大学祭・クリスマス会等の代替案

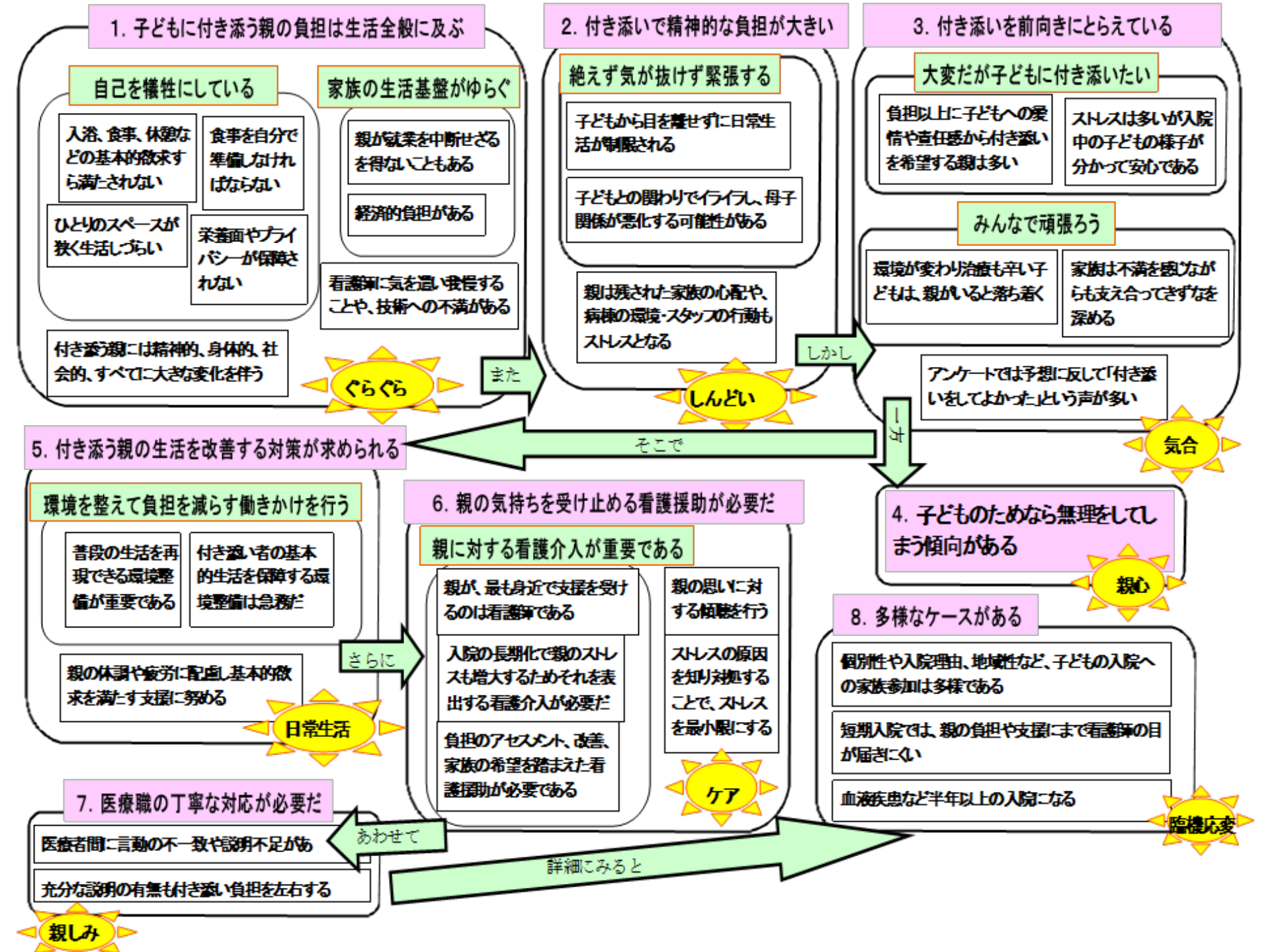
南松山病院のクリスマス
コンサートで患者さんと

学生会から1年生に授業成果発表の依頼が！

大学祭にみきゃんも登場♡

「松山まつり」に
3年連続参加！

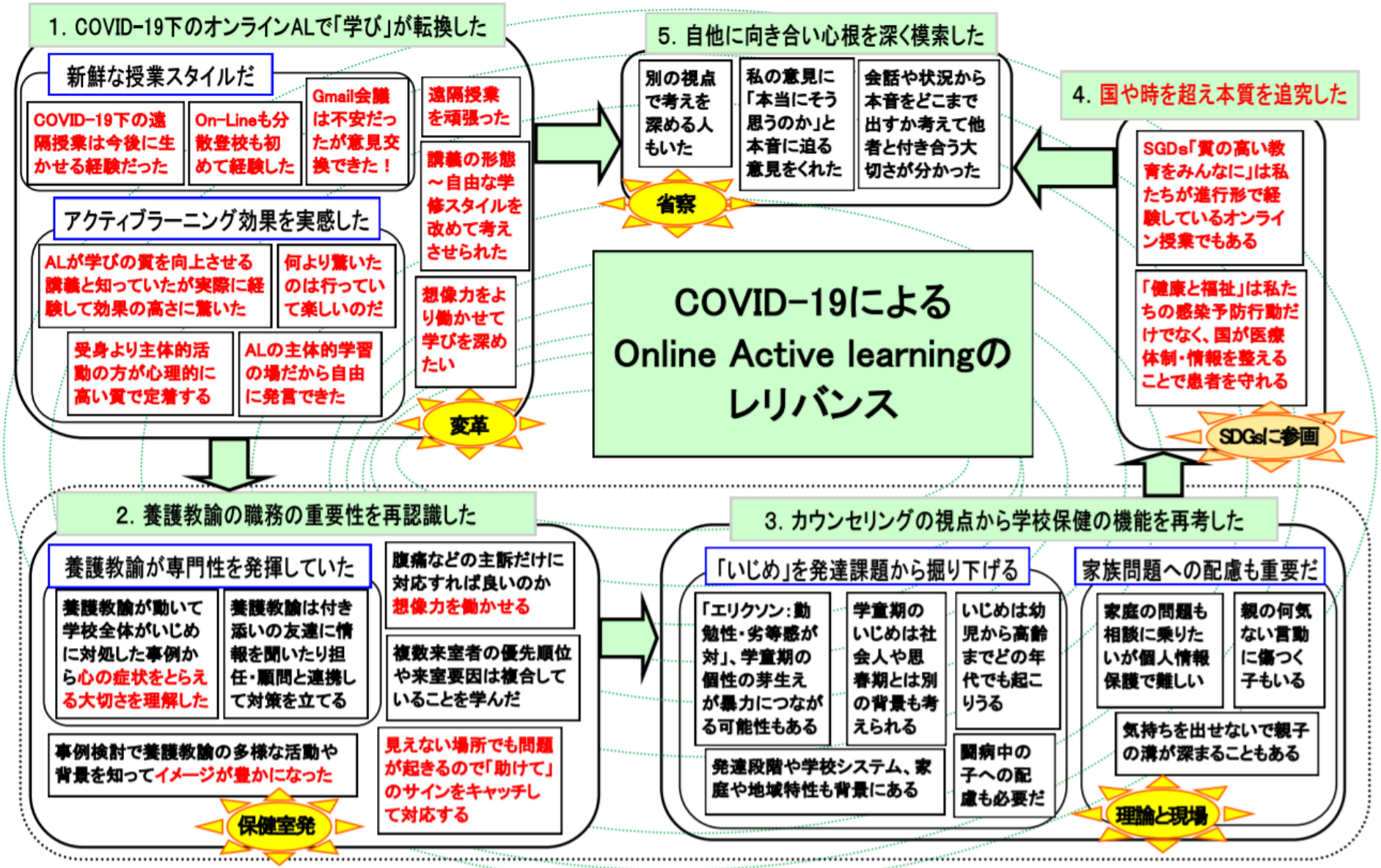
15班
日本の法律に関する
ものである。
6.20
日本初の公的扶助
の3原則を答えよ
22
4.9
下記の4つの扶助は
何の法律によって定められ
ているか
①教育扶助
②医療扶助
③住宅扶助
④葬祭扶助
22
扶助
3-1
児童福祉法は
1948年に
制定された。
○か×か？
77
児童福祉法
世界の生活に関する
構成要素である。
問4.10
国際生活機能分類
〈ICF〉の構成要素を
2つ答えよ
18
ICF
6-1
全国いっせいに
行われる
国勢調査は
基本、「5年」に1回行われる。
○か×か？
87
国勢調査
日本の人口に
関する調査である。
身体障害者の
等級である。
3-6
身体障害者手帳には、
障害の程度より
（）級～（）級まで
の等級が記載されて
いるか。
85
身体障害者手帳
人間の
心理に関する
ものである。
高齢者に関する
データと保険についてである。
高齢化
高齢化率は何歳
以上の人の割合の
ことをいうでしょう
74
問5.1
年金保険の給付の種
類は3つあるが、老齢給
付と遺族給付の2つは何があ
るでしょう。
74
年金給付
2-2
基本的欲求として
5段階に区分したのは
誰か。
85
基本的欲求
3-5
若年層の死亡
原因の第1位は
何でしょう
79
死亡原因


1. 子どもに付き添う親の負担は生活全般に及ぶ
自己を犠牲にしている
入浴、食事、休憩などの基本的欲求すら満たされない
食事を自分で準備しなければならない
ひとりのスペースが狭く生活しづらい
栄養面やプライバシーが保障されない
家族の生活基盤がゆらぐ
親が就業を中断せざるを得ないこともある
経済的負担がある
看護師に気を遣い我慢することや、技術への不満がある
付き添う親には精神的、身体的、社会的、すべてに大きな変化を伴う
ぐらぐら
また
2. 付き添いで精神的な負担が大きい
絶えず気が抜けず緊張する
子どもから目を離せずに日常生活が制限される
子どもとの関わりでイライラし、母子関係が悪化する可能性がある
親は残された家族の心配や、病棟の環境・スタッフの行動もストレスとなる
しんどい
しかし
3. 付き添いを前向きにとらえている
大変だが子どもに付き添いたい
負担以上に子どもへの愛情や責任感から付き添いを希望する親は多い
ストレスは多いが入院中の子どもの様子が分かって安心である
みんなで頑張ろう
環境が変わり治療も辛い子どもは、親がいると落ち着く
家族は不満を感じながらも支え合ってきずなを深める
アンケートでは予想に反して「付き添いをしてよかった」という声が多い
気合
しかし
そこで
5. 付き添う親の生活を改善する対策が求められる
環境を整えて負担を減らす働きかけを行う
普段の生活を再現できる環境整備が重要である
付き添い者の基本的生活を保障する環境整備は急務だ
親の体調や疲労に配慮し基本的欲求を満たす支援に努める
日常生活
さらに
6. 親の気持ちを受け止める看護援助が必要だ
親に対する看護介入が重要である
親が、最も身近で支援を受けるのは看護師である
入院の長期化で親のストレスも増大するためそれを表出する看護介入が必要だ
負担のアセスメント、改善、家族の希望を踏まえた看護援助が必要である
親の思いに対する傾聴を行う
ストレスの原因を知り対処することで、ストレスを最小限にする
ケア
4. 子どものためなら無理をしてしまう傾向がある
親心
8. 多様なケースがある
個別性や入院理由、地域性など、子どもの入院への家族参加は多様である
短期入院では、親の負担や支援にまで看護師の目が届きにくい
血液疾患など半年以上の入院になる
臨機応変
詳細にみると
あわせて
7. 医療職の丁寧な対応が必要だ
医療者間に言動の不一致や説明不足がある
充分な説明の有無も付き添い負担を左右する
親しみ

先行研究では入院患児への家族援助の重要性を指摘している。本研究結果でも、子どもの入院に付き添う親は**〈自己を犠牲に〉**したり**〈家族の生活基盤〉**がゆらいだりと**≪負担は生活全般に≫**及んでいた。また**〈緊張〉**など**≪精神的な負担≫**も強いられていた。しかし**〈大変だが子どもに付き添いたい〉〈みんなで頑張ろう〉**と、家族が**≪付き添いを前向きにとらえる≫**姿も見られた。さらに**≪子どもの為なら無理する傾向≫**もあり、注意が必要である。

以上のことから、**〈環境を整えて負担を減らす働きかけ〉**など**≪生活を改善する対策≫**とともに、**〈親に対する看護介入〉**など、**≪気持ちを受け止める看護援助≫**が看護職の重要な役割として求められている。

さらに、**≪医療職の丁寧な対応≫**や、**≪多様なケース≫**への配慮も求められている。



1) 2020.7.1 2) 松山・上之江・品川 3) パンデミック下のオンラインAL 4) 岡 多枝子・三並 めぐる・張 あかり・上西 加奈・上西孝明

図1「COVID-19下のオンラインAL健康相談活動論」(岡ら2020)

COVID-19による臨地・臨床実習への影響

- 年間を通して全ての臨地・臨床実習において何らかの影響があった
  - 施設における実習期間の短縮（2週間 ⇒ 1週間）
  - シャドーイング実習，直接患者と関わる機会や時間の制限
  - 全て学内実習に変更（2週間 or 3週間）
  - オンライン実習への変更

⇒高機能シミュレーターやバーチャルシミュレーションの活用

情報収集能力やアセスメント能力，スキルの向上

高機能シミュレーターを用いた学内実習

バーチャルシミュレーションを用いたオンライン実習

学内実習・オンライン実習の評価

- 学内実習においても臨地・臨床実習と同様のスケジュールで実施
- 病床環境や医療記録・データを再現
- 教員が模擬患者となりロールプレイを実施
- バーチャルシミュレーションやMicrosoft Teamsを活用し，
  Web上で実習環境を再現
  ⇒臨地での実習グループと学内での実習グループの実習後の
  アンケート結果において，教員の関わりや学習環境，実習全体の
  満足度のスコアに差はみられなかった

＜学生からの意見＞

「学内実習やオンライン実習では臨地での実習と同じようには難しいと思っていたが，より自分で考え動くことを学べた」

「カンファレンスの時間が増えたことで他の学生の考えや情報収集の視点，アセスメントの思考過程を共有，ディスカッションできた」

卒業後の臨床適応への影響と今後の取り組み

- 臨地で行うことができなかった実習については，実際のイメージが湧きにくく，その分野で仕事とするという選択肢がなくなる
- 他の同期との経験の差に関する不安
- 実施機会が減少した看護技術への不安，患者と直接関わる機会の減少によるコミュニケーションへの不安

⇩

卒後現任教育において技術項目の細かなチェックや指導が行われている

- 大学と臨床現場の間で，学生が経験・修得できていること，不十分な部分の情報共有が必要
- 学内実習・オンライン実習において，より臨床現場をイメージできる取り組み　⇒本年度から実習施設とWeb会議システムや遠隔配信システムを用いたリアルタイムでの実習指導を開始

- 人間環境大学松山看護学部はAP/CP/DP達成による「大学教育の質保証」に基づく看護教育を行ってきた。

- 発表者1はALとSDGsの視点を導入したハイブリッド（対面・分散・遠隔）授業を実施し、遠隔授業の長所・短所・展望の中で看護教育のレジリエンスが示された。

- 発表者2は、COVID-19の影響により、臨地・臨床実習も学内実習への変更や、オンライン実習の実施を余儀なくされた。本学では高機能シミュレーターやバーチャルシミュレーションを活用し、コロナ禍における新たな臨地・臨床実習の在り方や取り組みについての示唆を得た。

- 以上の通り、新たな時代の看護教育の質保証に向けて、医療等関係機関と協働して学生の学修・キャリア支援を進める必要がある。

Keyword
大学教育の質保証　ALとSDGs　リアルタイムでの実習指導　レジリエンス